

助け合いの精神で「ほっとかんまち高松」を

今年も早十二月。「歳末」です。「歳末」と聞くと「大売り出し」とともに「助け合い」という言葉が思い浮かびます。1年を無事に締めくくり、多くの人が少しでも楽しい正月を迎えられるように、さまざまな活動が行われています。よく知られているところでは、共同募金の一環として行われる「地域（NHK）歳末たすけあい運動」でしょうか。

今年是新天皇が即位され、新しい「令和」の御代が始まりました。4度目となる瀬戸内国際芸術祭が、瀬戸内の島々と高松港などを舞台に開催され、多くの来場者で賑わい、成功裡に幕を閉じました。そして、ラグビーのワールドカップでの日本代表の活躍に日本中が沸き返りました。私個人としては、4月の高松市長選挙において4選を果たし、8月には還暦を迎えました。その意味では、公私ともに時代や人生の画期となる年であったと思います。

一方で、8月から10月にかけて、相次ぐ台風の襲来などにより、風水害や土砂災害などが、全国広域にわたって発生し、多くの人命が失われるなど、甚大な被害をもたらしました。10月末には首里城が焼失するというショッキングな出来事もありました。華やかさと賑やかさや嬉しさの反面で、過酷な苦しみや悲しみが同居した年となりました。

そんな中、多方面で取り上げられたのが貧困や飢餓、働き方改革、環境問題などに関して世界を良くするための17の目標を掲げ、2030年までに達成することを目指して国連で採択されたSDGs（エス・ディー・ジーズ：持続可能な開発目標）です。その基本理念は「leave no one behind（地球上の誰一人取り残さない）」。これは、今、高松市が進めようとしている「高松型地域共生社会」の理念にも重なります。合言葉は「ほっとけん 市民みんなで作る ほっとかんまち高松」です。

SDGsと地域共生社会。何れも「助け合い」の精神がその基盤となります。令和最初の歳末を「助け合い」の精神があふれる温かい月で終わり、輝かしい新年へと繋いでいきたいものです。



ほっとけん 市民みんなで作る ほっとかんまち高松 #upTAK